令和5年度　大田区立羽田中学校　自己評価　報告書

令和6年3月4日

○　本校の概要

本校は大田区の東部に位置する羽田と東糀谷の2つの地域を校区に抱え、通常学級7学級と特別支援学級3学級の生徒208名が通学している。どちらの地域も町会、自治会のまとまりが強く、生徒は地域行事への参加や協力を通して、郷土愛を深め自尊感情を高めている。学校経営の基本方針は「豊かな心と主体性を育む教育の推進」「学力向上・体力向上のための取組の推進」「地域と共に子どもを育てる教育の推進」の三本柱であり、外部の人材を積極的に活用し、基礎学力の向上や体力運動能力の向上に向けての取組を推進している。学習面や生活面の課題も多いが、校区の小学校と連携し、改善に向けての努力をしている。特別支援学級は持久走と和楽器の演奏に力を入れ、生徒を積極的に校外に出すことにより、自信をつけさせている。校長の掲げるスローガン「一人一人が自分の夢を実現させるために日々努力し続けていける学校」のもと、教職員、保護者、地域が連携し、生徒の「豊かな心」「あきらめずに努力する姿勢」「他と協調し最善をつくす実践力」を伸ばす取組を推進している。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
							評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 生徒が安心してICT機器を活用できるよう情報リテラシーに関する指導を実施するとともに、情報活用能力の育成を図る	A 保護者アンケートで「将来のために必要な力を育てている」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「どのような生徒を育てたいか知っている」と回答した生徒の割合 C「ICTの活用状況に係る調査」において、「できる＋まぁまぁできる」と回答した生徒の割合	4：A 80%以上 B 70%以上 C 70%以上 3：A 60%以上 B 50%以上 C 60%以上 2：A 40%以上 B 30%以上 C 50%以上 1：A 40%未満 B 30%未満 C 50%未満	3	・外国語指導員を活用し、コミュニケーション能力の育成を図った。指導員の持ち味を生かし、外国語によるコミュニケーションの楽しさを実感させた。 ・運動量を確保しながらも、男女混合授業において、運動の楽しさ、技術の向上を図る授業に取り組んだ。 ・保護者アンケートにおいては、「将来のために必要な力を育てている」と回答した保護者の割合は80．0%であり前年度より4．6%低下したが引き続き高い評価を得ている。また、「教育目標や指導方針を明確に示している」も5．0%増加し、85%となった。過年度に比べ、学校での実践が保護者には伝わっていると思われる。 ・生徒の「どのような生徒を育てたいか知っている」への回答は、1．4%増加し、58．6%であった。生徒へも、学校のビジョンがしっかり伝わっていると思われる。	A B C D	5 6	・変化が大きいこれからの社会の中で、生きていく力としてコミュニケーション能力や情報活用能力は大事と考えます。探求と創造への取り組みにも期待しています。同時に、ICTネット社会でのトラブルに巻き込まれることのないように情報リテラシー、情報モラルの指導もお願いします。 ・今後ますます授業におけるICT活用の必要性は高まり、加速していくことと思います。ぜひ授業でのデジタル活用を推進していくことに期待します。また、デジタル・アナログ等のそれぞれの良さや悪さを考え、自分で最適な方法を見出せるような指導をしてもいいかと考えます。
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。 文章力、表現力等を高めるために、新聞教育（NIE、新聞作り）を取り入れた指導を実施する。	A 保護者アンケートで「ティームティーチング、少人数指導、補習教室などを実施し、生徒一人ひとりの学力を伸長しようとしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「ティームティーチング、少人数指導、補習教室などの取り組みは、生徒の学力を伸ばすために役にたっている」と回答した生徒の割合	4：A 80%以上 B 80%以上 3：A 60%以上 B 60%以上 2：A 40%以上 B 40%以上 1：A 40%未満 B 40%未満	4	・教員が生徒一人一人の学習状況をよくつかんでおり、寄り添って指導をすることで生徒の意欲向上につなげている。 ・特別支援への理解が深まり、生徒の特性に応じた指導も進んでいる。 ・学習カルテによる指導により、自己の学習状況の理解を深めた。 ・また、学習方法の指導を全校で行うことで、より効果的な学習を行うことができた。 ・学習教室は、生徒自身が必要性を感じて参加している。土曜学習教室は、毎回20名以上の参加をえている。 ・授業改善プランは全教員が関わり作成している。全教員がおおむね授業に生かすことができていると回答している。 ・NIEを取り入れた指導は、新聞作成による表現力等の育成に大きな成果がある。また、今年度も授業においてスクラップ学習を行った。社会的な関心が高まり、意欲の向上につながった。生徒からは区の優秀賞を獲得した生徒が出た。 ・「ティームティーチング、少人数指導、補習教室などを実施し、生徒一人ひとりの学力を伸長しようとしていた」と回答した保護者の割合は、80．0%であった。また、生徒の回答は80．3%であった。いずれも、「よくわからない」を除くと90%以上であり高い評価を得ていると考える。	A B C D	4 7	・一年生の生徒アンケートを見ると、学習に関する評価は低いが先生方の指導については高く評価しているのが分かる。学力向上は簡単ではないと思うが、生徒・保護者・教員の関係づくりが進むにつれて変化していくのではないかと考えます。引き続き粘り強く一人一人に寄り添った指導をお願いします。 ・生徒アンケートを見る限り、家庭学習では宿題をやらないとまずいが、予習・復習の数値が低めなのが原因や今後の対策等についての検討が必要ではないか。 ・保護者、生徒アンケートからティームティーチング、少人数指導補習教室等の成果があったようだが、生徒の学力向上のため、より強化を願いたい。 ・学力は高まったと思われますが、心配な学年もあります。
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。 デイリーライフ（生活ノート）の点検や休み時間・空き時間に生徒を見守り、生徒がいつでも相談できる環境をつくる。	A 保護者アンケートで「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」と回答した保護者の割合 B 不登校生徒の割合	4：A 80%以上 B 1%低下 3：A 60%以上 B 0.5%以上 2：A 40%以上 B 昨年度と同程 1：A 40%未満 B 0.5%以上上昇	2	・組織的に生活指導に取り組むことができた。ほぼすべての生徒が予鈴で登校し、自然に規律を守る状態となっている。 ・道徳の授業はICTを用いた対話的な授業が日常的に行われるようになった。 ・学校生活調査、QUの結果を用いて、生徒への対応を着実に行った。不安傾向が強い生徒が多く、不登校やメンタル面で課題の行動の要因となっている。〝とまり木〟（別室指導）を設けたことで、教員の早期対応の意識があがった。また、具体的な支援を行うことができるようになった。 ・学校での問題行動のケース会議を行う事案が今年度はなかった。個別に、児童委員に見守りをお願いする事例が複数あった。 ・メンタル面での課題を持つ生徒への対応のための個別ケース会議を多く行った。学年・SC・SR・部活動などの連携により、課題が改善した事例が生じた。 ・「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」の項目への肯定的な回答をした保護者の割合は、57．5%と4．0%減少したが、「わからない・無回答」を除いた回答の中での肯定的回答の割合は非常に高くなった。今年度も、学校での取組が保護者から見える状態となり保護者からは評価されている。しかし、不登校生徒は、未だ10%を超える状況であり、予防的な指導がさらに必要とされる。 ・生徒アンケートでの「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」に肯定的に回答した生徒の割合は、77．0%であり、昨年度より0．9%上昇した。学校の取組が見えるようになったと思われる。	A B C D	3 7 1	・不登校の原因も複合的だとは思うが、とまり木の対応を始めた2年生や1年生の不登校率が高くなっていないことは評価に値すると思う。 ・特支の生徒との一緒の部活動の実施も生徒たちの他者理解につながると思う。 ・コロナ禍で集団活動ができなかった影響は大きく、集団に不安を感じる生徒が多いのも分かる。地域でもボランティア活動等で自己肯定感や自己有用感を高めていけるようみんなで活動する楽しさを共有できるように協働していきたいと思う。 ・いじめ、不登校等はいつの時代もなくなることはないようですが、学校教職員、SC、「とまり木」等つながりがあるのは心強いと感じています。生徒アンケートでは「きちんと対応している」が多数あり評価できるが、よりいっそうの強化を願いたい。 ・学校評価生徒アンケートにおいて「生徒は、中学生にふさわしい服装や髪型、言葉づかいをしている」という項目での評価が低く（48%）、生徒の自由意見の場でも落ち着きのない学年がうかがえ、規律が乱れているように感じる。土曜授業の場でも、外部からでもそれが見てとれる。
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	A 保護者アンケートで「元気に登校し、楽しい学校生活を送っていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「先生は健康な生活を送るための指導をしている」と回答した生徒の割合	4：A 90%以上 B 80%以上 3：A 70%以上 B 60%以上 2：A 50%以上 B 40%以上 1：A 50%未満 B 40%未満	3	・「早寝・早起き・朝ごはん」運動に、学校として取り組んだ。習慣化することを意識して取り組んだ。 ・栄養士による食育の指導や、毎日の給食を通しての食育を活発に行うことができた。 ・保護者アンケートで「元気に登校し、楽しい学校生活を送っていた」に肯定的に回答した保護者の割合は85．0%であり、昨年度と同様である。また、生徒の「生徒は、元気に登校し、楽しい学校生活を送っている」の回答も、79．6%であり昨年度と同様である。体育祭・文化祭をほぼ例年通り行ったことが影響している。また、「健康な生活を送るための指導をしている」に肯定的に回答した生徒の割合は85．5%で昨年度と同様である。 ・給食への肯定的評価は生徒93．4%、保護者92．5%であり、非常に高い。栄養士を中心とした取り組みが成果をあげているとともに、保護者が学校に肯定的な目で見るようになったことがうかがえる。	A B C D	5 6	・部活動についての保護者アンケートの評価が下がっており、地域移行や働き方改革についての説明がより必要なのではと感じました。 ・食育は大事、給食・授業・部活を通して生徒が健康的な生活を送ったことと思います。栄養士、給食調理の方々の努力を評価します。 ・これからも部活動や体育的行事等に取り組む羽田中の活気や盛り上がりに期待します。

プラン５　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 授業規律と教室内外の環境整備を徹底し、誰もが落ち着いて学習に取り組める環境づくりを進める。	A 保護者アンケートで「わかりやすい授業を実施するために、様々な工夫をしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「授業をわかりやすくするために、様々な工夫をしている」と回答した生徒の割合	4：A 80%以上 B 90%以上 3：A 60%以上 B 70%以上 2：A 40%以上 B 50%以上 1：A 40%未満 B 50%未満	3	・授業公開における保護者アンケートにおいて95%が「わかりやすい授業をしていた」という質問に肯定的な回答がされている。 ・支援委員会及び、SR委員会を週1回定期的に行い、不登校・いじめのチーム支援をした。また、その背景である特別支援の指導をすすめることができた。個々の特性に応じた支援がすすみ、SRに入級する生徒が増えた。 ・「授業をわかりやすくするために、様々な工夫をしている」というアンケートに肯定的に回答した生徒は89．5%、保護者は75．0%であった。 ・いじめへの対応も向上しており、安心安全な教育環境がつくられている。	A B C D	5 6	・ICTを活用した授業の実施等にも積極的に取り組んでいて、先生方の意欲を感じています。 ・生徒の安心、安全を常に考えていただけると思います。 ・研究発表会や研修会等の成果を積極的に取り入れて教員のさらなる向上に期待します。
プラン６　学校・家庭・地域が一体となって共に進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 小中一貫「生活指導スタンダード」「学習指導スタンダード」を保護者に周知し、校区の小学校と連携・一貫した指導を行う。 保護者と共に生徒を見守り、生徒が安心・安全に生活できるようPTAのパトロール活動に学校として協力する。	A 保護者アンケートで「開かれた学校づくりをしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「ボランティアで地域の行事などに意欲的に参加している」と回答した保護者の割合	4：A 90%以上 B 70%以上 3：A 70%以上 B 50%以上 2：A 50%以上 B 30%以上 1：A 50%未満 B 30%未満	3	・ホームページは、ICTサポーターや経営支援部を活用し、学期に2～3回更新することができた。 ・地域連絡協議会は、新型コロナウィルス感染症五類移行に伴い、学校をみていただく取組を平常に戻した。学校として胸襟を開き、情報を提供している。 ・学校支援地域本部とは密接な連携がとれている。学習指導、マナー教室、特別支援級への書写指導など多くの事業を継続実施できた。また、今年度も、2年生の薬物乱用防止教室を、学校地域支援本部を仲介して法務省（鑑別所）の心理技官にしていただいた。 ・体育祭、文化祭、学校公開などできる限り、保護者が参観できるようにした。 ・ボランティアが復活したが、参加する生徒数が少なかった。意義・必要性などを次年度以降、再度指導していく必要がある。	A B C D	4 6 1	・不登校の対応等で、小学校との連携は一層重要と感じております。 ・PTAパトロール活動への協力については、今後検討が必要でしょうか。 ・学校だより等を通じて学校内の様子がよく分かりますが、ホームページに授業の様子や生徒の成果物、部活動などの様子をもっと発信し、保護者や地域の人たちにアピールしてほしい。ホームページの強化により、生徒の増員につながればと思う。 ・学校へ来校した時など生徒はあいさつをしてくれますが、以前より減ったように感じます。 ・コロナがおさまり、学校行事が以前に近づき、学校に行かれる機会が増えた。しかし、地域の人が入りやすい学校というイメージとは遠く、もっと連携を深めることが望まれる。

〇「成果評価」は、各校が４段階で定めた成果指標によって行う。
〇記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
〇学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である の４点について、評価した人数を記載する。